

## “図書館は友達” “生涯学習の場”の実現を目指す 7年目を迎えた「友の会」活動がスタート 総会後のライブラリーカフェも大盛況

「葛飾図書館友の会」の第7回総会が中央図書館会議室で4月26日(土)午後3時から開催されました。冒頭、橋本中央図書館館長から(1)小菅地区に地区図書館を平成28年開館に向け準備中、(2)中央図書館雑誌スポンサー制度の開始、(3)新小岩駅に返却ポストを新たに設置というトピックスを含めた挨拶と祝辞をいただきました。

議長を選出したあと、議案の審議に入り、各委員会から昨年の計画に沿った活動が行われてきたとの報告がありました。また2万5千円近くの寄付をいただき、同額の繰越金を残せたことなどの決算報告が行われ、監査結果とともに了承されました。処理の迅速化と一本化を図るため、会計を2名から1名にする会則の変更も行われました。さらに、従来「児童・YA サービス応援委員会」を活動実態に合わせ「児童サービス応援委員会」と名称を変更することが承認された後、今年度は役員(任期2年目)改選の時期にあたり、右記の役員体制が確立しました。

次に平成26年度の活動計画の提案が行われました。昨年と同様11月に「第6回友の会ウィーク」を開催することをはじめ、各委員会がこれまで通り、ボランティア活動を進め、会員の増強と経費の削減のために努力をしながら、「友の会」を発展させていくことを目指した方針が、予算案も含めて原案通り承認され、4時前に終了しました。

これまでの「友の会」活動では直接館内で本に触れる活動の機会があまりありませんでしたが、今後は原則として毎月第3土曜日の午後1時から配架整理や本の清掃などの活動を交互に行う予定です。

### 役員体制

|                       |                 |
|-----------------------|-----------------|
| 会 長                   | 朝野 熙彦           |
| 副 会 長                 | 鶴岡 幸子<br>高橋 久郎  |
| 会 計                   | 中里 隆二           |
| 会 計 監 査               | 飯 泉 孝<br>田 中 弘子 |
| 総 務 委 員 長             | 福部 國弘           |
| 広 報 委 員 長             | 矢野 京子           |
| イ ベ ン ト 委 員 長         | 川 島 勉           |
| ナ イ ト シ ア タ ー 委 員 長   | 加 藤 和 也         |
| 児 童 サ ー ビ ス 応 援 委 員 長 | 大 作 道 子         |
| 展 示 企 画 委 員 長         | 栗 竹 敬 子         |
| CD・DVDコンサ ー ト 委 員 長   | 高 橋 久 郎         |

## 《ライブラリーカフェ2014》開店報告

総会に連動して、今年もライブラリーカフェを開催しました。総会が会員だけのクローズドな集まりであるのに対して、ライブラリーカフェは一般の図書館利用者に開かれた親睦の集まりです。図書館の魅力をアピールするとともに当会の活動を紹介する絶好の機会ともなっています。鶴岡副会長が中心になり全役員が企画実施に参画して、年々素晴らしいイベントに成長してきています。今年のライブラリーカフェは、地域文化、時事問題、歴史、書架整理という4つのグループに分かれて楽しく賑やかに活動しました。人の話を黙って聞いているよりも、やはり自分で実際に体験してみたり、ディスカッションすることが大事だと再認識できた次第です。(次ページへ)

## 《初体験！ 中央図書館内の書架整理》

### “間違い探し” は面白い

#### 本に触れられ、ささやかな達成感が・・・

このグループには6名が参加しました。まず職員の方から配架についての説明と注意を受けたあと、オレンジ色のエプロンを着けて、館内へ出て、来館者が多く利用する旅行ガイドブックや7類と呼ばれる「芸術・美術・音楽・芸能・スポーツ」関係の書棚、そしてCDのコーナーの整理を担当しました。

請求記号という、日本十進分類法に基づいた「分類番号」と「著者記号」で表記された図書の背に貼られたラベル通りにきちんと書棚に本が配架されているかを確認し、“つらあわせ”と称する棚の前面の縁に沿って本を揃える作業です。参加者は左から右へと書棚を目で追いながら、配架場所が違って書籍はないかのチェックを行いました。冊数も多く、本棚の下部分は暗く、さらに身を屈めなければならないという作業の厳しさを体験しましたが、発見した時の喜び(?)もありました。またポップス関係のCDはさすがに利用者が多いためなのか、かなり乱雑に並んでいました。

1時間足らずの短い作業でしたが、達成感もありました。(一参加者)



## 《かつしか郷土かるた》 クイズには議員さんも苦戦



『かつしか郷土かるた』は司会(高橋副会長)を交えて4名のパーティでこじんまりと行われました。異色の参加者は当会の初代会長の川越誠一さん(現区議)です。区民参加で制作されたこのかるたは、百人一首とともに開催される「カルタ取り大会」として友の会の新年行事になりつつありますが、なかなか良くできた郷土かるたで、全国の自治体かるたのなかでも楽しく学べるかるたの筆頭です。

しかし思いのほか内容は濃く、乱取りで1位だった川越さんも、若い女性参加者も司会者が苦心して作った15問の『3択・かるたクイズ』ではなかなか苦戦のようでした。たとえば、『江戸小紋の伝統技術者で人間国宝はだれ?』とか、『荒川放水路の工事を指揮した世界的技術者は?』などには降参。楽しいひと時を過ごしました。

### 「小保方さんの問題、本当に悪いのは誰だ」

今回の事件の事実関係を整理すると次のようになります。

- 1) 2014年1月:「ネイチャー」にSTAP細胞の論文が掲載される
- 2) 2月:リケジョ(理系女子)がマスコミで話題に
- 3) 4月:不正疑惑に関する理研の調査報告が出る
- 4) 4月26日現在:論文捏造・改竄に対する不服申し立て、理研の調査委員長辞任、STAP細胞の存在は依然として不明という混沌とした状態にあります。

一部のマスコミでは割烹着がどうした、指輪のブランドが何だのといったファッションばかりが取りあげられました。しかし科学研究に対する社会の認識不足や国の研究支援の問題など、今回の事件が発生した真の原因は深いものがあることがグループで議論されました。(グループ司会:朝野会長)



## 語り合う「大奥の謎」から広がる歴史よもやま話へ



歴史好きな女子6名が集まりました。大奥のテレビ番組の話から始まり、天皇と徳川家との姻戚関係の歴史におよび、皇居の桜、マンガや映画の大奥、篤姫などなどと話はとどまることなく続きました。

大奥というキーワードから、いろいろな歴史、文学、紀行へとそれぞれの知識が披露されていきました。興味ある歴史、好きな本のことを語り合える場と時間を堪能しました。来年のテーマは「源氏物語」にして、光源氏について語り合

ましようかと決め、楽しい時間を終えました。

講師 樋野 興夫(ひの・おきお)氏

(順天堂大学医学部病理・腫瘍学教授・医学博士)



### — 『がん』を哲学的に考える、ユニークな専門外来 —

「がんにかかったとき」、人生がガラリと変わる。高齢者は『とうとう来たか！』と、宣告を受けた思い。男女・年齢を問わず襲ってくる絶望感。今日のお話は病理学の権威が説く診察でもない手術でもない外来、【がん哲学外来】を日本で初めて開設した医学者の講話です。主催＝中央図書館・平成26年2月23日開催

会場の会議室1には溢れるばかりの高齢者を中心に満員の聴衆。樋野先生はにこやかに登壇して【がん哲学外来】の開設由来を語り始めました。医師が『がん』と診断したとき、以前はほとんど本人に知らせず、周囲と相談して治療？処置？を開始するのが常でしたが、いまはほとんど告知し、あらゆる手段の治療法または終末治療を説明されるのが普通だといいます。

日本人の死亡原因は相変わらず『がん』が第1位。関心はもちろん高いのにもかかわらず、患者自身とそれを取りまく家族の無理解から生ずる医学的、社会的問題について、なんとかしたいという思いが講師の言葉に感じられました。

『哲学』とは、〈人間として〉《いかによく生きるべきか》を追求する学問といわれています。いわゆる哲学的な空論に走るのではなく、《to do》に傾きがちな現代のがん医療の在り方に対し、《to be》どうあるべきか＝さながら死刑宣告を受けたような患者および家族・親類縁者に対し、外来診察を通じて《心のあり方》を患者とともに考えるということでしょうか。

### — 『がん』を日本人の心の柱“武士道”精神で受け止める？ —

講師がこのようなアプローチをさだめた理由は、患者自身の問題を含め親子兄弟・親類縁者が、ただ延命だけをもとめて患者の苦痛を延長させる医療の現実や、実際に介護の責任を負う近親者の負担に対し『がん』への理解をふかめたいという願いからでありましょう。

日本人の心の持ち方については、明治32年に出版された世界的ベストセラー『武士道』（英語版・BUSHIDO 新渡戸稲造・著）が、世界の知識人に与えた影響を忘れることはできません。じつは『われ、21世紀の新渡戸稲造とならん!』という図書が2003年に出版されました。著者はもちろん樋野教授です。

新渡戸教授は有名な札幌農学校初代教頭クラーク博士の薫陶を受け、アメリカへ渡ってジョンズ・ホプキンス大学で学び、キリスト教徒となった後、アメリカ人の女性と結婚しました。その後ドイツに学び病を得て日本に帰国してからは全快後、東京帝国大学教授、東京女子大学長などを経て国連の事務局次長の重責を果たし、72歳で亡くなりました。

講師はこの著者をはじめ明治・大正・昭和に活躍した学者などの考え方に学び、がん外来の哲学的基礎を固めたのではないかと思います。哲学的とは言ってもその神髄を難しく説くのではなく、患者と共に真に人間としての生き方を考える姿勢に感銘を受けました。

がん患者であるなしにかかわらず、このような信念を持った世界的な病理学者の診察を受けたいと、心の底から思うすばらしい講座でした。

(広報委員・高橋久郎記)

## 葛飾図書館友の会 作業ボランティア予定

- 中央図書館 原則月1回 第3土曜日 午後1時から4時（書架整理、本の清掃など）
- 葛飾ろう学校 原則月1回 第3水曜日 午後1時半から（書架整理、ブックカバーかけ）

友の会ホームページに日程など詳細を掲載しております。友の会の活動に興味ある方はぜひ下記ホームページよりお問い合わせください。友の会オレンジブロンを着用しての作業となります。<http://katsutomo.jimdo.com/>

## 4月の第1回目は絵本の配架作業から 葛飾ろう学校でのボランティア活動が始まる 毎月第3水曜日の午後を予定

4月16日（水）午後、綾瀬にある東京都立葛飾ろう学校で図書館のボランティア活動に伺いました。先に学校から「葛飾図書館友の会」に図書室の本の整理やブックカバー掛けなどの協力依頼があり、それに応えた活動です。学校には幼稚部から高等部まで約190名の生徒が通学し、この日は会員6名がオレンジ色のエプロンを着用し、校内の幼稚部の図書室「お話のへや」での絵本の整理をしました。

担当の先生から依頼された内容は、すでに「あ行」から「わ行」に分けられて山積みされていた絵本を、背の下に貼られた著者記号（絵本の場合は画家名を50音順で分類されている）のラベルと確認し、書棚に並べる作業でした。一部ラベルの記載内容に誤りを発見したり、分類が不明な絵本をピックアップするなどの作業を約1時間ほど行った後、小学生以上が利用するという学校図書室に移動しました。入り口脇にある絵本のコーナーで、ラベルが再貼付され移動ラックに並んだ本を書棚へ並べる作業を約20分行い、終了しました。

この葛飾ろう学校でのボランティア活動は原則的に毎月第3水曜日（8月を除く）の午後1時半から2～3時間、今後、寄贈本の分類ラベル貼りなどの作業も予定されています。参加される方は当日学校に集合してください。



### 「葛飾図書館友の会」で一緒に活動しませんか！

『友の会』は多くの会員によって活動しています。図書館を利用されている方、活動趣旨に賛同される方々、是非ご入会いただいて、あなたの図書館に関わるいろいろなアイデアを少しずつ実現してみませんか？

原則として第3土曜日の午後1時から4時まで中央図書館内で、また友の会の開催イベント時でも直接の入会受付を行っていますので、是非ご利用ください。年会費は一般会員 1,000 円、賛助会員は1口 2,000 円です。上記の方法が利用できない場合、入会希望者は中央図書館に入会届をご提出の上、年会費を下記の口座に納入してください。図書館での年会費の直接納入はできません。「通信欄」に一般あるいは賛助会員かを明記の上、26年度年会費とご記入下さい。また1口

|        |      |                |
|--------|------|----------------|
| ゆうちょ銀行 | 口座番号 | 00100-7-392065 |
|        | 口座名称 | 葛飾図書館友の会       |

500 円の寄付も大歓迎です。払込手数料は窓口では130円、ATMからでは80円です。恐れ入りますが、ご負担をお願いいたします。入会届はHP (<http://katsutomo.jimdo.com/>) からダウンロードできます。

●問い合わせ先 中央図書館友の会担当者（打越さん、吉村さん、白井さん、川井さん）TEL 03-3607-9201

### 色えんぴつ

数年前から幼児に読み聞かせのボランティアに参加している。母親のお膝にだっこされ、文字や絵はわからなくともこちらの問い掛けに手足をバタバタさせて答えてくれる（様な気がする）。自分の幼い頃も、絵本を読んでもくれる母親の顔を見ながら手足をバタバタさせていたのだろうか▼今思うに我家は絵本など買えるような環境ではなかった気がするのに、表紙の角が丸くなった絵本が数冊常にあったような気がした。物心がついた頃、昨夜読んでもらった本がいつの間にか消え、見かけない絵本があつたのが不思議だった。多分今流に言うところの近所さんとの回し読みだったと思う▼字が読めるようになるのと、私を本好きにしてくれた母は面白い人で、私が学校から帰りすぐ本を読み始めると、それがマンガであつても何も言わなかった。ある時、本に夢中になっていた私が空腹を感じ、食卓を見るときれいに片づけられていたこともあつた。母は涼しい顔をしていた。それからは気を付けるようにした▼自分で本が買えるようになると、私の部屋の三方は本に占領された。「ちよつとした図書館ね。」と母は笑う。その母が亡くなった歳より、二〇年以上も私は長生きしている▼今の私の本棚には趣味の本に並んで健康に関した本がズラリ。今日もその本の中から「認知症にならないために」を手に、幼い頃と同じようにお菓子を片手に、曾ての文学少女からただのおばさんになった一日が過ぎようとしている。

（小林広報委員）